

栃木フォスタリングセンター通信

とちのき

Vol.05

TFC



栃木県での養育里親の愛称は「とちのきフォスター」となりました。手のひらの形をした大きな葉を持ち、しっかりと根を張り強く大きな木に育つ県木「栃の木」。その「とちのき」と、英語で里親を意味する「フォスター」を組み合わせ、愛情をこめて育てる里親と、その愛情を受け、すくすく育つ子どものイメージを表しています。TFCではこの愛称から機関紙を「とちのき」としました。

令和5(2023)年2月

真実告知

私が児童養護施設(養徳園)に奉職した30年前、「真実告知」は当たり前ではなかった。「実親のことは知らないほうが子どもにとって幸せなのではないか?」と思われていたのだろう。しかし、いく人の卒園生が「自分がどうして施設に入ったのか知りたい」「今親がどうしているのか知りたい」と言って施設を訪れてきた。

30年間の中で、出生にまつわる真実告知はした経験が2回ある。2人とも生まれてすぐに乳児院に入所しその後養徳園にやってきた子どもで、里親委託を進めているが叶わず、高校卒業まで施設で過ごした。1人目は中学2年の立志式の前に、2人目は小学6年の時だった。2人目(M子とする)のことについて記したい。

小学6年のGW、帰省したり親と外出したりする子を見て、「何で私だけお母さんに会えないの?」と担当職員に言ってきた。それを聞いた私は、家族についての説明をする必要を感じ、実母のこと、兄、姉がいること、養徳園に入所するまでの経緯について、使い古しの茶封筒の裏に年表やジェノグラムを描きながらわかりやすく説明した。この夜M子は自室で泣いていたという。この茶封筒を人知れず何度も見直したのだろう、眠りについていた顔の横にパサっと落ちていたこともあった。

私からの説明の後、M子は担当職員に「心のモヤモ

ヤがとれた」と話したが、この頃からM子に反抗的な言動がみられるようになってきた。例えば、宿題をしない日が続いているので、担当職員がやるように諭すと「うざい」「あんたにはカンケーねえし」と反抗しながら涙ぐむことがあった。また、寝付けず夜中まで起きていることも増えてきた。

あの時点での「真実告知」は正しかったのか。もっと前にやるべきだったのか、それとももっと大人になってからだったのか。何が正解なのかはわからない。ただ言えることは、子どもの権利に関する条約の第7条第1項に「できる限りその父母を知る…権利を有する」と謳われ、子どもには「知る権利」があるということだ。

「真実告知」にあたって、私はある覚悟をする。子どもにとってつらいことを話す以上、その子の悲しみと共に背負っていこうと、そして将来にわたってつき合つていこうと。

【追記】理事3人で交代で毎週水曜日に養育中の里親さんの相談を受けています。大学在学中の里子が留年しそうだと、里子が実親の現況を確認したがっているなどの相談を受けました。養育にあたって迷っていること、どんなことでもよいのでお聞かせください。



令和4年度里親全体研修を開催しました

日時 令和5年2月4日（土）13:30～15:30
場所 パルティとちぎ男女共同参画センター

- 「子どもの権利擁護について」
TFCセンター長：湯澤典子
- 里子による語り
コーディネーター 養徳園総合施設長：福田雅章氏



令和6年4月より「改正児童福祉法」が施行されます。その最大のポイントは「子どもの権利」という文言が使用され子どもが権利の主体であることが法律上明確化されたことです。それにより社会的養護の分野でも様々な取り組みが始まっています。

例えば、子どもの意見表明権を保障するということでは、施設や里親の下で育った社会的養護の当事者たちが自らの体験や意見を話せる機会が増え、それらを通して施策提言などに繋げられるよう彼ら自身があるいはそれを支援する動きが全国的に広がりを見せていることなどです。当事者ゆえのそのリアルな語りが社会的養護に携わる多くの関係者の心を動

*改正児童福祉法の概要抜粋

児童の意見聴取等の仕組みの整備【児童福祉法】 児童相談所等は入所措置や一時保護等の際に児童の最善の利益を考慮しつつ、児童の意見・意向を勘案して措置を行うため、児童の意見聴取等の措置を講ずることとする。都道府県は児童の意見・意向表明や権利擁護に向けた必要な環境整備を行う。

里子経験者による語り



たくさんのこと教えられました。皆さん
の勇気に心からの感謝と敬意を表します。



Mさん：施設から里親さんの家に行きました。施設と里親さん宅での生活の違いに戸惑いもありましたがとてもやさしく接してくれたことに感謝しています。現在一児の母親です。子育ても手伝ってもらっています。

Y君：何不自由なく生活することができました。大学時に「特別養子縁組」に。高校卒業までは里子であることを学校では隠していました。早くに公表すればよかったです。中学高校と好きな柔道に打ち始めたのは両親のおかげです。里親さんが里親同士の交流をしていろいろ相談しあっていたことは良かったと思います。

Hさん：母親を亡くし父親と暮らしていましたが経済的には大変でした。中2の時に最初の里親さんに預けられました。急だったので不安でしかなかったことを覚えています。今の里父さんは英語が話せる人で、英語を教えてもらっています。また学校が遠かったので送り迎えをしてもらったことに感謝しています。子どもには愛が必要。たくさん愛をあげてください。

S君：里親宅からファミリーホームへと生活の場を変えています。大人不信だった自分の凍った心をゆっくりと溶かしてくれたことに感謝。里子同士の交流が大切だと感じている。今後は自分と同じような環境下にいる後輩たちのために自分のできることをやっていきたい。自分の過去を知らされないと前に進めないという仲間がいる。本人が希望したならできるだけ教えてほしい。

とちのきフォスター 時間外電話相談

毎週 水曜日 17:00～20:00

※養育中のお子さんに関する相談に限ります。

お子さんの養育で困っている方、一人で悩まずにお気軽にご相談ください。



080-8082-2298

「里親カフエ」



12月10日(土)とちぎ健康の森 教室A
【冬のおさがり会】

洋服・靴・おもちゃ・本などを、密にならないで探せるように部屋いっぱいに並べました。皆さん自由に選び、とても喜んで持ち帰られました。

今回は遊びコーナーの代わりに絵本の読み聞かせを行いました。ママのひざの上で、目を丸くして絵本に見入るお子さんたち。とても可愛いかったです。

※スタッフが本を読む横に並んで真似をする2才ちゃんも出現です！

提供してくださった里親さん、ありがとうございました。



12月24日(土)とちぎ健康の森 多目的ホール
【クリスマス会】

外は雪です。今回のカフェはとても広い会場です。30名を超える参加でした。バルーンアートの『ウシさん』のパフォーマンスに子どもたちは夢中。並んでリクエストをしたり、バルーンアート作りに挑戦する子もいました。

バルーン作品が出来上がるたびに大人からも「すごい～」と拍手が沸いていました。

後半は『とちまる君』登場！で会場から歓声。家族ごとに並んで写真撮影会です。そしてチョコチョコと可愛く手を振って『とちまる君』は帰って行きました。子どもも大人もとても良い笑顔でした。

最後に「ウシさん」からディスプレイのバルーン作品をもらえるじゃんけん大会をしました。大作をゲットした子は「やった！」とジャンプ。まだじゃんけんが出来ない小さい子の代わりは大人が参加。1人のママは見事、サンタのバルーンをゲット！やりました！子どものためには真剣勝負ですよね。

同時開催【続・おさがり会】

前回来られなかつた方はおもちゃや服を喜んで持ち帰られました。あちこちで里親同士連絡先を交換したり、歓談の輪ができていました。フォスター友だちが増えることを願っています。

雪が降った後は青空になりました。



1/14(土)とちぎ福祉プラザ【委託未経験の里親カフエ】

当初はTFCで開催予定でしたが申込みが多く、急遽、会場をとちぎ福祉プラザに変更して行いました。昨年末に登録になったばかりのピカピカの里親さんの参加もありました。互いの顔が見えるように大きな円座になり、トークをしました。この冬に初めて『ふれあい

里親』を経験した里親さんもいました。休みの時や週末に児童養護施設の児童を自宅で預かる『ふれあい里親』は、多くの里親の第一歩。社会的養護のお子さんへの理解を深める大切な経験になっていくと思います。参加者からは「ふれあい里親は気疲れもしあけれど自分も楽しかった」「また他の里親さんの話を聞きたい」「今日は参加して良かった」などの感想をいただきました。



TFCの里親カフエは中央・県南・県北の地区を超えて里親さん同士の交流ができる場です。テーマがある回と、どなたでも参加できる回を設けています。土曜日の午前中、ちょっと遊びにきてみてくださいね。

養徳園 里親支援専門相談員
永山 美佳



今年度から養徳園の里親支援専門相談員となり、もうすぐ1年が経ちます。初めての経験も多くこの1年間は手探り状態の日々でしたが、養徳園は以前から「里親の日」や「里親交流会」など“施設としてできる里親支援”について考えながら活動してきたこともあり、私もこれまで実施してきたこれらの支援を踏まえながら活動を行うことができました。

TFCが開設され、フォースタリングパートナーとしても活動する機会をいただいている。子どもたちの表情や行動が少しずつ里親家庭に馴染んでいき、里親さんが子を愛おしく見守る様子を伺うことはパートナーとして心温まる瞬間です。同時に、大変なことも多い子育てに日々奮闘している里親さんには頭の下がる思いです。

子どもたちはこれから未来を担っていく存在です。その子どもたちの健やかな成長を「チーム養育」の一員として、少しでもお手伝いができたらと思っております。

里親になって今

(S・Kさん)

最初は偽善の心だった。社会貢献には私達夫婦はいつも興味があり、養育も縁組も出来る里親として登録した。ほどなくして特別養子縁組前提のまもなく6歳になる子供を迎えた。

当初私は、実親との思い出が明確であった里子Aの母になろうとは考えていなかった。この世で一番のAの味方で良き理解者になろうと、思い上がりの考えがあった。しかし、休みなしの毎日の中ではそんな思いだけではやっていけないのが現実だった。委託後はひどい試し行動だった。今思えば、大半が試し行動だったのだと思うが、当初はAの障害を疑った。平和で穏やかな暮らしをしていた私達の生活は一変し、全てが里子中心となってしまった。覚悟はしていたが、Aは養育ではなく縁組前提だ。もともと発達の遅れがあり、今後もし発達障害や他の障害が明確になってきたらなど、様々な将来の不安を感じた。

じた。Aはまだ幼児なのに異様にお金に執着が強く、お金を使いたがった。私達の老後が破綻するかもしれないとの不安も感じた。そんな中、ある研修に参加した際、「里親は愛情とスキル」と聞いた。私の頭の中でいつもその言葉がぐるぐるした。「果たして自分にはAに愛情があるのだろうか」と自問自答を繰り返したある時Aの事を本気で心配し、怒ったり泣けてきたりする事があり、Aへの愛情に気づいた。また、Aは母親を必要としており、求めているのだと気づいた。Aは私を「ママ」と呼ぶようになった。Aと共に暮らすようになって、約6ヶ月が経過し今、私は母となつた。

様々な不安を感じながらも、母となる一歩を踏み出しましたね。里親養育に悩んだときには栃木フォースターリングセンターにご相談ください。私たちスタッフが応援します。

里子の養育のための専門的プログラムを実施しています。

フォースターリングチェンジ・プログラム

参加人数が10人以下の少人数で行われ、委託されている子どもと、良い関係を作り、問題行動に対応するための具体的方法をグループでの実践を通して学びます。里親自身の自尊感情や自信の回復にも配慮していきます。今年も実施する予定ですので、予定が決まり次第ご案内いたします。どうぞご参加ください。

フォースターリングチェンジプログラムを受講して (H.Nさん)

受講を誘われた時には、子どもの関係は良好と思っていたので不要と思いましたが、参加できて良かったと今は心から思います。子どもとの時間が、以前よりずっと楽しいものになりました。

受講して一番良かったことは、「子育てにはいろいろなやり方があり、一つ試してダメだったら次を試せば良い」と聞けたことです。間違った子育てをしてしまったらと、自分にプレッシャーをかけていたことに気付かされました。ロールプレイでは、心を動かされ、笑ったり考えさせられたりしながら、相手の身になることの大切さと難しさを感じました。

教わるのみではなく、疑問に応えていただく

時間もあり、経験の中で作られた、それぞれのファシリテーターの方のお考えを聞けたので、それも今後に活かしていきたいです。

また、自分の体験や困り事を話す機会もあり、肯定的に聞いてもらえる場のありがたみを感じました。他の受講者の方の経験を聞き、これからを具体的に想像したり、ウチと同じ!と安心したり、どんどん気持ちがほぐれ、以前の自分に戻ることができたように感じています。

頭で分かることと、実際にできるようになるまでには間があると実感していますので、今後も教わったことを振り返り、また新たなやり方も集め、試しながら、子どもと一緒に成長していきたいと思います。



栃木フォースターリングセンター
TOCHIGI FOSTERING CENTER

T 320-0065
栃木県宇都宮市駒生町1837-3
tel:028-612-6970
fax:028-612-6971
email:tfc2021@circus.ocn.ne.jp

開所時間:9:00~17:00
定休日:日曜日、月曜日、祝日、年末年始

ホームページもご覧ください



HPのQRコード



<https://tfc2021.jp/>